

平成 28 年度 第 2 回 磐田市文化財保護審議会（結果概要）

日時 平成 29 年 2 月 6 日(月) 13 : 30 ~ 15 : 00
場所 磐田市埋蔵文化財センター 2 階 研修室
出席者 磐田市文化財保護審議会委員 10 名中 9 名
平野吾郎会長 小杉達副会長 芹澤拙夫委員 日比野秀男委員 増田千次郎委員
鈴木敬雄委員 中山正典委員 坪井俊三委員 加藤理文委員
出席職員 教育委員会事務局 10 名
村松教育長 秋野教育部長 高梨文化財課長 村松課長補佐兼管理グループ長
飯田主幹兼歴史文書館長 竹内主幹兼調査グループ長 佐口主査 鈴木亮司主査
山内主査 安藤(囑託)
傍聴人 なし
議事 報告事項

①市内無形民俗文化財の記録保存事業の今後の予定について

[事務局からの説明]

今後の予定であります。平成 28 年度 磐田市豊岡地区に伝承されている遠州大念仏の保存伝承を図るため、調査及び映像記録化を実施した。この事業の事業者は「磐田市伝統文化活性化実行委員会」ですが、文化財課が事務局となり、審議会委員である小杉・中山両委員の指導を受けて実施しています。

豊岡地区では 7 地区(大平・合代島・壱貫地・松之木嶋・大楽地・三家・上神増)で大念仏が伝承されており、平成 28 年度はこのうち 4 地区(大平・合代島・壱貫地・松之木嶋)の調査及び映像記録化を行い、次年度(平成 29 年度)は残りの 3 地区(大楽地・三家・上神増)を実施していく予定です。その成果(DVD 化したもの)については、今後、関係自治会、図書館や学校、市のホームページなどに提供していく予定です。

平成 30 年度以降については、市指定となっている掛塚祭の映像及び屋台修復を対象としていくよう考えています。今後、計画書が提出されると思いますが、前回の審議会で審議いただいた「磐田市文化遺産保存等選定基準」に合致する内容となっています。次回以降の審議会において、審議していただくよう考えています。

また、「文化遺産を活かした地域活性化事業」は次年度以降「文化遺産総合活用推進事業」に名称が変わり、要綱などの内容も一部変更され、自己負担率が採択基準の一つになっています。平成 30 年度は、事業費の 15%以上の自己負担が採択要件の一つになるため、事業者と協議を行う必要があります。

[主な意見]

- ・大念仏が信仰とともに、地域に伝承されているというのは非常に意義のあるものであ

り、豊岡の大平の大念仏などはお盆の行事と一体化して行われており価値があるものである。そのほかの地区でも大念仏は行われていたが、今では徐々に衰退し、なくなってきてしまっている。そういうことから、この豊岡地区の大念仏は記録を残し伝承していく必要がある。

- ・今後、指定していく場合は、記録では残していくので問題ないと思うが、伝統行事そのものをどうやって残し伝えていくのか、かなり知恵を絞っていかないと難しい場面が出てくる。
- ・昔はお盆の時期になると、どこの地区でも皆が自然と集まって当たり前のように実施していた。楽しみでもあり、田舎のお祭りのような感じであつたので、こういう行事が残ってほしいなと思います。

また、災害などがあつた時、何が心の支えになるかといったら、やはりお祭りなんです。皆で集まって皆で盛り上がる。民俗文化財をどう守っていくのかというのは非常に大事なことであります。

⇒本年度に4地区、来年度は残りの3地区の記録保存を計画どおり進めていきます。

②遠江国分寺跡整備基本計画について

[事務局からの説明]

- ・平成18年度から平成26年度まで行った発掘調査の成果を踏まえて、基本計画をまとめています。
- ・遠江国分寺の特徴である、建物の土台部分が木装基壇で出来ており、それを擬木で復元していく計画となっています。もう一つの特徴である燈籠について、木製の竿、柱を持つ古代の寺院跡では唯一ここだけあります。
- ・塔については、柱の下にある礎石の配置を復元する予定です。
- ・全体的に遺構の保護という観点から見通しを良くして、南側からの眺望を良くする予定です。
- ・築地塀については、制約が厳しく、模擬的な築地塀になる可能性があります。
- ・基本計画については、今後、地元自治会や国分寺、花の会などの関係者に説明していく予定です。
- ・パブリックコメントを行い、広く意見を募集しました。
- ・基本計画がまとまり次第、整備委員会に諮り、準備が整い次第、市民に配布する予定です。
- ・現存する国分寺の扱いについては、史跡指定地内ということもあり指定地外へ移転できないか協議を重ねてきましたが、非常に難しい状況であります。また、御堂(昭和初め頃の建造物)については「残すべき」という意見もあり、現在調整中ではありますが、何らかの形で残せればと考えています。

[主な意見]

- ・木装基壇の復元を擬木で行うのはどうかと思う。木で復元するのが筋ではないか。
現在ではいろいろ技術が進歩しており、腐らない方法で施工もでき、金額も擬木と同等でできるのではないか。一度検討したほうがよい。
- ⇒既存の物及び遺構を壊さない形で復元を行い、目に見えない部分の具体的な施工方法などは、整備委員会で検討しながら進めていきたいと考えています。
- ・出土遺物などの展示については、基本計画のなかで考えているのか。
- ⇒資料館的なものの計画は今回ありませんが、トイレ兼展示スペースを備えた施設を予定していますので、「パネルやレプリカのようなものを展示できれば」と考えています。
- ・当初は「是非、建物の復元を」という意見があったが、調査の結果、それを示すデータなどが得られず、復元するための根拠を示せず、なかなか難しい現状があった。
築地塀なども同様で、難しい状況がある。
- ⇒回廊は柱間がよくわからない。礎石なども残っていないため復元には難しい面があります。

③遠州豊田 PA 南地区発掘調査について(広野遺跡)

④市道拡幅工事に伴う発掘調査について(長江崎遺跡)

[事務局からの説明]

遠州豊田 PA 南地区ですが、当初の 22,500 m²から 4,500 m²となり調査自体は縮小したが、4,500 m²のうち 1/4 程度が非常に密なところに遺構が集中して出ており、なかなか進捗が図れないという状況です。

また、旧石器時代の遺構が、2 万年くらい前と 2 万 5 千年くらい前のものと二つあることがわかった。現在、2 万年くらい前の方の目途がつきはじめており、残りの 1 ヶ月半で 2 万 5 千年前の作業を終了する予定でいる。

なお、現地での説明会を 2 回開催したが、11 月末に開催した 2 回目は 180 名と多くの方に集まっていただきました。

市道拡幅工事(鎌田地区の長江崎遺跡)に伴う発掘調査を行うものです。この事業は、鎌田新駅の南口から福田に向かって接続される道路で、平成 31 年末の鎌田新駅の完成に合わせて開通したいという計画があります。それに合せて計画的に発掘調査を行いたいと考えています。

[主な意見]

- ・特になし

⑤県指定天然記念物「善導寺大クス」の管理状況について

〔事務局からの説明〕

本年の9月に芹澤部会長立会いのもと現地にて土壌調査を行いました。その結果、表層から20cm～30cmまでは、落ち葉や堆肥などにより土壌環境の改善が見られ、表層から10cm付近までは、新しい根が確認できましたが、それより深い所では粘土層ということもあり、根の進展は確認できず、土壌環境を改善する必要性が改めて確認された。

また、今後の管理について都市整備課と協議を行い、水やりや施肥などの日常的な管理は都市整備課で行い、樹勢回復のための業務は文化財課にて行うよう分担を決めました。

〔主な意見〕

- ・下の固い粘土層には根が入っていかない。藁などを敷いて光が入るようになれば、根は上に上がってこずに下へ生えていきます。しかし、下は固い粘土層でありますので、その部分の土壌改良を行う必要がある。一気にを行うと危険であるので、年数をかけて計画的に行うことが必要である。

⇒来年度に土壌改良工事と枯れ枝を除去する工事を予定しています。

⑥文化財課企画展「昭和の戦争と磐田」について

〔事務局からの説明〕

豊田図書館展示室において、「昭和の戦争と磐田」と題して企画展を行っています。当時の写真や市民の方々から寄付された品々を展示、紹介することで、戦争と磐田との関り、当時の市民生活などを振り返る内容となっています。

〔主な意見〕

- ・パンフレットに日時や場所が明示されていないが。
- ⇒配布のパンフレットは会場での説明用でありますので、記載されていません。別にチラシを作成しているので、このチラシに記載させていただいています。
- ・このような戦争関連の品(仏像なども含めて)というのは、いつか無くなってしまいうことが多いため、少なくとも市で所有しているものについては、リストを作成し歴史・戦争遺産としてある程度選別し、歴史資料として(文化財として)指定していくことも必要ではないかと思えます。
 - ・今回の企画展を一つのきっかけとして、防空壕なども含めて、どのように手当てしていくのか、難しい部分もあるが、データなど揃えてリスト化していく必要があると感じる。

⑦その他

〔事務局からの説明〕

磐田市の虫生地区という一番北側で、森町との行政境にあり一宮小國神社の奥の院という位置関係にある峠道に三石という場所があります。この三石に三つの石があり、二つは森町側でうち一つが破損しており、一つは残っている。いい形で残っているもう一つが磐田市側にある。この石は、小國神社の神社領の境界を示す石として古絵図にも掲載されている場所とのことであります。森町としては、この三石を史跡指定にしたいとの意向があり、「磐田市側も一緒に」という話がありました。本日は、「そのような話がある」という認識で結構です。今後は、現地を確認するなどの状況の把握が必要と考えています。

〔主な意見〕

- ・標柱や燈籠など、工事や危険などの理由から撤去されたりするケースが後を絶たない。いろいろな観点から今ある歴史的な遺物を徹底的に調べ、基礎データとして整理する必要があると考える。

⇒現地確認や状況の把握が必要と考えます。

〔事務局からの説明〕

委員の任期についてご案内いたします。事務局としましては、「現体制での再任」をお願いしたいと考えております。今後、いろいろな事情などにより、辞退されるという場合には大変恐縮ですが、3月末までに連絡いただくとありがたいと考えています。次の任期は、今年の6月1日から平成31年5月31日までの2年間となります。次回の審議会で改めて委嘱させていただく予定でございますので、よろしくお願いいたします。